

審査の結果の要旨

本論文は、中国社会において紛争・対立を訴訟で解決する行動様式がしばしばみられることに着目し、伝統中国の社会での「健訟」、すなわちさかんに訴訟が行われる状態、の発生について考察したものである。そして、本論文は中国社会について、歴史的な展望の獲得を意図すると同時に、日本社会との比較など、東アジアの地域社会の問題として、視野を拡大することも意図されている。具体的な内容は、以下のとおりである。

まず、序章では、「健訟」に関する従来の学説について整理検討している。「健訟」の発生に関して、従来、訴訟制度の性格や「訟師」、すなわち訴訟への介入を生業としている者、の存在が背景にあるといわれてきたが、そうした社会的状況の存在とならんで、歴史的な各地域社会の実情に即して「健訟」の発生を検証する必要があることを指摘して、社会経済的な諸条件、すなわち物流の増加や商業の活発化、人口の増加などについてさらに検討し、諸産業の展開との関係を中心に具体的に検証する必要があるとする、本論文の中心課題を設定した。

論文の本論にあたる部分では、宋代において「健訟」の発生地としてとくに有名であった江西地域（ほぼ現在の江西省にあたる地域）における状況に着目し、そこでの「健訟」の現象と諸産業、すなわち鉱業・農業・陶瓷器業などとの関係を中心に分析を加えている。これは、伝統中国の社会の基本構造が宋代に形成されて明清代に継承されたとの観点から、まず宋代の社会状況に分析を加え、それを踏まえて、明・清期から現代まで視野を収めようとするねらいによるものである。

本論文は全六章と付論からなる。第一章では、宋から明代の江西地域における「健訟」の発生状況について分析し、当該時期の江西地域で、「健訟」の現象が発生していたことを確認した。つづいて、第二章では、宋代江西地域における鉱山経営と紛争・訴訟について分析している。宋代の江西では鉱業経営が盛んとなったが、政府が、有力者に経営を請負わせ、また、他の鉱山経営の不正を告発した者に不正を行った者の鉱山を請負わせるなどの措置をとったため、経営の請負をめぐる人々が激しく競合するという不安定な状況が出現した。そうした状況下で、官への納入額を増やして地位の上昇を図る有力者が出る一方で、嘘の申請をして官から元手として支給される資金を奪ったり、不正な告発をして競合相手から利権・利益を奪おうとする者（史料には「豪民」と表記される）が出現した。しかし、こうした豪民の行動や、それにより発生した紛争は、近隣社会における共同体的な規制によって解決されるのではなく、その被害を受けた者が訴訟を起こして自己の利権・利益に対する侵害に対処することが多かったという。また、訴訟の処理に不正介入する胥吏の姿勢と、政府による不正告発の奨励が、訴訟の発生を助長していたことを解明して

いる。

第三章では、宋代江西地域における鉱山開発や鉱物輸送に付随した紛争・訴訟について分析している。この時代のこの地域では、鉱業の発達に伴い鉱物輸送や鉱山関係者が使用する日用品や工具の流通が活発化した。鉱物輸送の請負などに関して人々が競合するようになり、ここでも「豪民」が胥吏と結託して、物資輸送手段を不正に奪って利益を独占するなどのことから、被害を受けた有力者等が訴訟を起こすようになっていた状況を解明した。

第四章では、宋代江西地域における田土・脱税に関する紛争・訴訟について分析している。宋代江西地域の吉州や饒州では、田土（耕地）の所有形態が不安定であったため、農業が盛んになって、田価が上昇し、土地売買が活発化し、社会関係が複雑化すると、生存権の確保をめぐる人々の競合が激しくなり、遂には、一部の有力者や「豪民」が訴訟を起こして他人（貧民など）の田土や財産を奪うようになった。しかし、郷村社会では、こうした「豪民」の行動を規制することはできなかつたため、被害者（貧民）から訴訟が起こされるようになった。また、政府が過重な徴税をしたために人々の競合がさらに激しくなり、他人に自己の税負担額を押し付けて脱税する事態も発生して、税負担額に関する紛争も多発するようになった。こうした紛争も、被害者を訴訟に駆り立て、また、政府による脱税告発の奨励や越訴の許可なども「健訟」を助長し、さらに訴訟に不正介入する胥吏の姿勢がそうした風潮をいっそう促進していたことを明らかにした。

第五章では、宋代江西地域における陶磁器売買での不正と訴訟について解明した。宋代江西では、現在も有名な景德鎮などを中心に、陶磁器業が盛んになり、陶磁器の売買が活発化した。そこでもそれに携わる有力商人などの不正に関する裁判沙汰が多数発生していたことを明らかにしている。

第六章では、明代の江西地域における田土・脱税に関する紛争・訴訟について述べる。江西地域の農業は、明代初期には、元代末期の動乱から回復しさらに発展したが、耕地（土地）の所有形態は不安定であり、人々の競合は激しく、明代中期になって社会関係が複雑化すると、有力者が他人の土地財産を兼併・略奪するなどの紛争が一般化した。明朝は里老人制をしいて、郷村社会内で紛争を処理させることにより「健訟」に対処しようとしたが、明代中期以降、里老人による郷村社会での紛争解決挫折し、訴訟が増加した。さらに、明代後期に銀財政への転換が進むと、有力者が「詭寄」すなわち自分の耕地を偽って他人の名義にするなどの手段で脱税をするようになった。こうしたことに由来する紛争は、やはり郷村社会では解決が容易でなく、訴訟が増加したという。

以上の分析をふまえて結語では、宋代の江西地域における「健訟」世界の全体像について考察している。宋代にこの地域で「健訟」が発生した背景には、従来、発生要因として指摘されていた物流のみならず、この地域における鉱業・農業・陶磁器業などの諸産業の顕著な発達があり、それにともなって物流もまた増加していたこと、また、重要な論点と

して、産業が発達すればどこにおいても「健訟」が発生するわけではなく、問題は、産業の展開に伴って生ずるさまざまな紛争が「健訟」に発展するという、構造的な特質を指摘している。

そして、「健訟」をもたらした宋代の江西地域における構造的特質として、鉱山経営に関する政府の措置（請負制と不正告発の奨励）や、不安定な田土・耕地の所有形態などにより、産業が盛んになるに従って、生業や生存の確保をめぐる人々の競合が激しくなり、ついには、一部の有力者ないし「豪民」が不正な訴訟（告発）を行って、他人の利権・財産などを奪うようになったこと、しかし、近隣・郷村社会ではそうした「豪民」の行動や、その結果発生した紛争を規制・解決することが容易には行われず、被害者は訴訟を起こして、自己の利権・財産などに対する侵害に対処するようになったこと、また、本来「豪民」の行動を抑制するためになされた政府による不正告発の奨励や、胥吏・訟師による裁判への不正介入と訟学の隆盛などが、訴訟の発生を助長させていたこと、これらの諸点をそれぞれの相関関係を明らかにしつつ、説得的に指摘している。

このような宋代地域社会に対して、宋王朝は「豪民」の行動を牽制し、社会秩序を規制するためにも、科挙官僚制の整備と地域エリート層の成長に立脚した秩序建設を指向し、王朝支配の基盤を強化するために、宗室を科挙に進出させたという。この論点を敷衍しているのが、本論文の付論の部分である。修士論文の成果をふまえた付論において、宗室（＝皇族）が大量に科挙に進出するという宋代に顕著な現象を取り上げ、南宋時代の王朝国家と社会秩序の在り方について分析が加えられている。それによれば、南宋時代、地方に移住した宗室は、王朝の支援の下に科挙受験に進出し、地域エリート（士大夫）層の一員となって、地域社会の秩序維持に影響力を持つ存在となり、王朝の基盤強化に貢献していたという。こうした動きを、本論文は王朝の主導で地域秩序の形成をねらう試みと評価している。こうした政策は、明代に宗室の科挙受験を禁止し地方に封建した政策とは相違するが、王朝権力と地域社会秩序との関係を考察し、「健訟」をめぐる社会構造を議論するうえで、重要な視角となりうることを示唆している。

さらに本論文は、このような宋代江西地域における「健訟」世界と伝統日本の社会における紛争処理の在り方とを比較し、日本の近世社会は、村で起きた紛争は、基本的に村の内部で処理されており、近隣・郷村社会の範囲において紛争を処理できるか否かという点で、両者が、根本的に相違する社会であったことを指摘した。この比較の視点はきわめて興味深い。また、宋代江西地域における「健訟」世界と明代江西地域における「健訟」世界とを比較し、明代の「健訟」世界の原形は、すでに南宋時代にできており、それが明代中期以降、再現・発展したとする展望を述べている。

以上、本論文は、宋代中国の地域社会において、紛争や利害の対立が処理される際に、訴訟の手續を展開することが一般であったこと、その訴訟をめぐる「健訟」という言葉が普及するに足るような複雑な社会的事象が展開していたことを、社会経済の動向と関連

させて説得的に明らかにした業績と評価される。訴訟や裁判に関わる社会事象と経済的諸関係を連関させて解明することは、史料的な制約もあって困難な課題であったと推測されるが、本論文はその困難を丹念に史料を検討することによって克服し、関連学界に寄与する成果をあげているといえる。

存在が指摘された社会構造の具体的な内実や、明・清中国の訴訟をめぐる慣行とのつながりの解明など、なお議論を深める余地は認められるものの、これは本研究の価値と学界への貢献を減ずるものではなく、審査委員会は、論文審査の結果として、本論文を「博士(学術)」の学位を授与するに値するものと判定する。